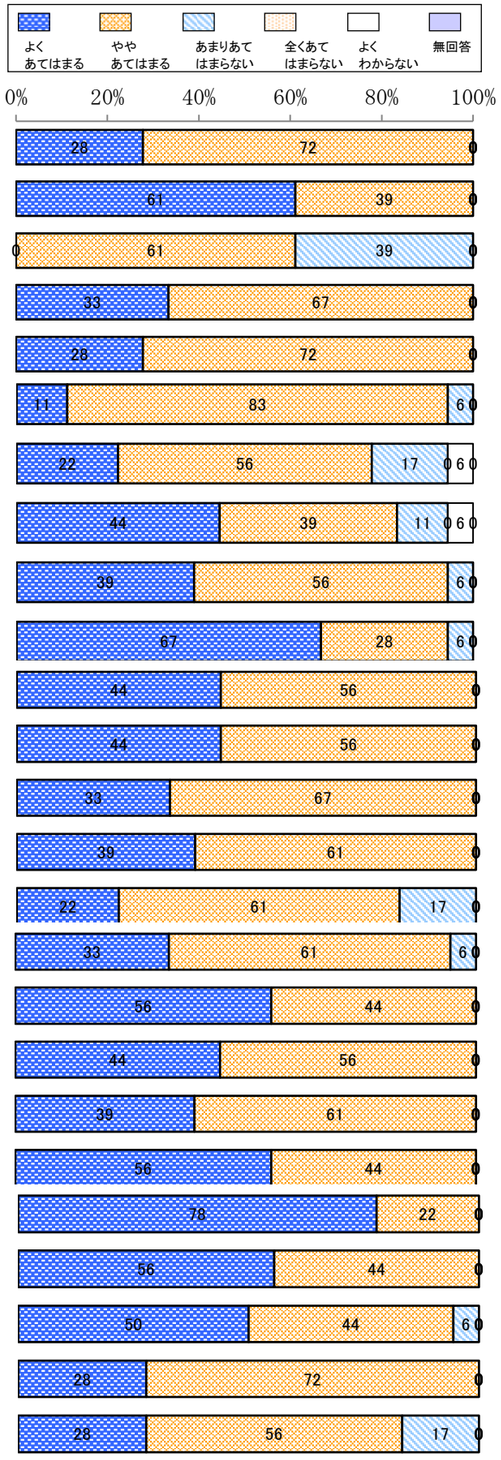
令和5年度　『学校評価アンケートの結果』と『自己評価』

荒川区第二日暮里小学校

様式４

		アンケートの結果		上段：児童　下段：保護者等　グラフ：教職員					
				A	B	C	D	よく分からない	無答
学校全体の様子	1	教育目標・方針	児童・生徒や保護者等と共有できるように学校の教育目標を示し、方針を説明している。	42	39	11	1	7	0
				35	53	8	1	3	0
	2	児童・生徒の様子	児童・生徒は、明るく素直で、生き生きとした楽しい学校生活を送っている。	64	23	9	1	3	0
				50	42	7	0	1	0
	3	基本的生活習慣	児童・生徒の服装や通学態度、挨拶など基本的生活習慣がしっかりしている。	44	45	9	1	2	0
				27	63	6	1	2	0
	4	児童・生徒理解	児童・生徒の良さや努力しているところを見つけ、励まし、理解しながら一人一人の能力を伸ばすように努めている。	29	46	17	3	5	0
				53	39	3	1	4	0
	5	健康・安全・安心	児童・生徒の健康や安全（確保・対策）に配慮するとともに、主体的に行動できる防災教育を充実している。	56	27	10	3	3	0
				52	42	2	2	2	0
学力向上の取組	6	分かる授業	楽しく分かりやすい授業が実践されている。	50	33	10	3	4	0
				40	52	2	1	6	0
	7	個に応じた指導	習熟度別学習等、児童・生徒一人一人の理解の程度に応じた学習指導が行われている。	58	28	8	3	3	0
				34	43	9	1	13	0
	8	学習習慣	放課後の補充指導等を行うとともに、家庭での学習課題を提示する等、学習習慣の定着を図る工夫をしている。	59	26	9	3	2	0
				36	50	7	1	6	0
	9	情報教育	タブレットＰＣなど、ＩＣＴ機器を活用した教育を推進しながら、情報活用能力の育成に向けて取り組んでいる。	56	31	11	1	2	0
				43	31	11	2	13	0
	10	学校図書館の活用	読書と学習に役立つ学校図書館として活用されている。	44	37	13	2	4	0
				42	41	7	2	7	0
社会性・人間性の育成	11	人権教育	自他を大切にし、偏見や差別を許さない豊かな人権感覚を育てる教育を行っている。	59	33	4	2	2	0
				33	49	5	2	12	0
	12	道徳教育	生命を大切にする気持ちや他人を思いやる心、善悪の判断や規範意識を育てる等、道徳性をはぐくむ教育を行っている。	34	39	15	4	8	0
				29	56	2	1	13	0
	13	教育相談	教育相談を充実し、いじめや不登校を防止する等児童・生徒一人一人の居場所がある学校づくりに努めている。	43	28	13	11	5	0
				36	40	6	1	17	0
	14	人間関係づくり	学校行事等の教育活動を工夫し、体験活動を充実させながら望ましい人間関係が築けるよう取り組んでいる。	67	24	5	1	2	0
				69	28	2	1	1	0
	15	自治的な活動	学級活動や児童会・生徒会活動等で、児童・生徒が自発的・自治的に活動できるように工夫しながら指導している。	61	28	8	2	1	0
				53	39	2	1	6	0
保護者・地域との連携	16	情報発信	学校便りや学年便り、学校ホームページ等で、保護者や地域の方に、学校の教育活動の様子を分かりやすく知らせている。	47	27	6	3	17	0
				39	51	8	2	1	0
	17	相談への対応	児童・生徒や保護者からの連絡や相談を丁寧に受け止め、適切な対応をしている。	45	37	9	4	5	0
				53	37	6	2	2	0
	18	学校への参加	学校公開週間や土曜授業日、学校行事等では、保護者や地域の方が参加しやすいように工夫している。	47	27	12	5	8	0
				61	37	0	1	1	0
	19	地域との連携	地域の行事などに協力的で、連携を図っている。	37	33	19	8	3	0
				40	39	4	0	17	0
	20	意見の反映	保護者や地域から寄せられた意見や要望を受け止め、学校運営と教育活動の改善に努めている。	45	28	5	4	17	0
				34	40	2	2	21	0
各学校の特色ある教育	21	今年度の重点目標	他を認め、共に行動できる子供の育成に努めている。	32	38	11	6	13	0
				18	62	11	2	7	0
	22	体力づくり	体を動かすことが楽しくなるような教育活動を行っている。	67	19	11	2	1	0
				63	29	6	1	1	0
	23	チャレンジ精神の育成	チャレンジ精神と主体性を醸成するための教育活動を行っている。	39	42	12	3	4	0
				21	56	20	1	2	0
	24	自己理解・自己育成	児童のよさや課題を理解し、可能性を引き出す指導をしている。	34	42	11	3	9	0
				22	60	13	1	4	0
	25	体験活動の重視	自然・人・社会（本物）に触れる体験活動を計画的に行っている。	42	38	10	4	7	0
				33	56	8	2	2	0

無効票を除く（%）



無効票を除く（%）

学校の自己評価（考察）

○質問３「基本的生活習慣（服装、通学態度、挨拶）」の項目について、児童・保護者と教職員の回答に大きな乖離がある。児童・保護者の３～４割は「よくあてはまる」と回答しているものの、教職員は０である。校内の児童の様子でみると、元気よく挨拶ができる児童が確かに存在するが、特定の児童である。朝の登校指導の際にも、気持ちの良い挨拶ができる児童は一部であり個人差が大きいことが、このアンケートにも反映されている。教職員は、全体で取り組ませたい思いが強いためか、「よくあてはまる」が０であると考えられる。

○質問６「わかる授業」の項目について、児童・保護者の約４～５割が「よくあてはまる」と回答しているが、教職員の２割しかよくあてはまるがいない。教職員の謙虚であるといえるが、二日小は、若手の教職員が多いため、確かに授業力の向上は課題であるといえる。自信をもって指導にあたるためにも、今後も校内研究及び校外での研修や出張に積極的に参加することで、授業力の向上に学校全体で取り組んでいく。

○質問14「人間関係づくり」の項目について、児童・保護者の約７割が「よくあてはまる」と回答しているが、教職員は約４割にとどまっている。教職員は、個々の児童について、友達との関わりに課題をもっている児童がいることを把握できているといえる。ににち教室とも連携して、他児童と仲良く過ごす手立てについて、教職員で理解を深め各学級で実践を継続していく。

○質問15「自治的な活動」項目について、児童・保護者の約５～６割が「よくあてはまる」と回答しているが、教職員の２割しかよくあてはまるがいない。今年度の学校経営方針では、「チャレンジ精神と主体性を醸成する…」となっているが、各教職員が、その点については、まだ課題があると自覚しているものと思われる。児童会活動や委員会活動など、児童の自発的な活動を今後も積極的にサポートしていくと共に、児童が「自分たちが活動している。」と満足感をもてるような学級・学校づくりを進めていく。

○質問20「意見の反映」の項目について、児童・保護者の約３～４割が「よくあてはまる」と回答しているが、教職員の５割が「よくあてはまる」と回答している。割合のみでの判断は難しいが、教職員の受け止めについて、高く見える。結果を真摯に受け止め、今後も児童・保護者の意見をよく聞き、寄り添っていけるようにしていく。また、都ＳＣや区心理専門員、ＳＳＷの力も借りて、相談を受ける体制を確かなものにしていきたい。

○質問21「今年度の重点目標」の項目について、児童・保護者の約２～３割が「よくあてはまる」と回答しているが、教職員の８割が「よくあてはまる」と回答し、大きく乖離している。児童・保護者にとってはそれほどでもないと感じている。この点に関しても、結果を受け止め、児童がお互いのよさや違いを認め合える学校・学級づくりについて力を入れていかなければならない部分である。次年度の校内研究とも関連づけ、指導にあたっていく。